

寺田 守 議員

ふくろいの風景づくり計画

問 本市に残っている常夜灯や道標などの歴史的資源や、「とうももん（田面）」といった独自の言葉などを大切にすべきではないか。

答 今後、常夜灯や道標などの分布図を作成し、保存に努めていきたい。また、古くから伝わる言葉の伝承は重要であるため、看板表記などに生かしていきたい。

浜岡原発への対応

問 浜岡原発のEPR（防災対策の重点範囲）を、現状の10kmから本市も含まれる30kmに拡大するよう行った緊急要請の、その後の進展はどうか。

答 EPRの拡大は、原子力安全委員会でも今年度中に結論を出すとされている。県や関係自治体と連携し、引き続き取り組みていきたい。



袋井の原風景「とうももん（田面）」

農作物への放射能被害

問 福島第一原発の事故により、本市の農作物への放射能汚染が心配されるが影響はどうか。

答 本市のお茶については、県による放射能調査で暫定規制値を大きく下回った。新米についても検出されず、安全性が確認された。今後、来年度2月までの間、対象36品目への調査が行われる予定である。

沼上 賢次 議員

災害時への備えや

管理体制が必要

問 被災者への支援業務に効果を発揮する「被災者支援システム」の導入をすべきと考えるがどうか。

答 戸籍や住民登録などのデータが発災時に整っていることが必要であるため、住民情報の管理やバックアップ体制などを確実にすることともに、各種データを相互にリンクできるように導入していきたい。

問 浅羽南幼稚園、あさば保育園の子ども達の安全確保のため、避難タワー設置を最優先すべきと考えるがどうか。

答 津波から身を守るための対策や避難訓練に取り組んでいるが、県道の横断や距離など課題もある。設置場所等については、幼稚園、保育園の関係者や地域の方々話し合いをしていきたい。

子ども医療費助成制度の拡充を

問 子どもを安心して生み、育てやすい環境整備のために、対象年齢や助成の範囲の拡充を図るべきと考えるがどうか。

答 県も、本制度の対象年齢拡充の意向を示したことから、本市においても、本制度の拡充を検討している。来年度から通院分の対象年齢の拡充をしていきたいと考えている。



津波避難訓練の風景